

第5期

砂山地域まちづくり計画

【令和6年度～令和8年度】

みんなで話し合い、取り組み、

誰もが健幸で、

支え合う集落・地域を目指して



令和6年4月

砂山地域まちづくり協議会

1 はじめに

村上市では、各地域が抱える課題の解消や地域の活性化を目指し、市民と行政が一体となった「市民協働のまちづくり」が取り組まれています。平成23年度末には、その推進組織として「地域まちづくり組織」（以下「まちづくり協議会」と表記）が、市内に17組織が設立されました。

各まちづくり協議会には、地域の担当として市職員が配置されており、地域住民と共に活動を行う人的支援と、地域まちづくり交付金による財政的支援を受け、地域の特色を活かした活動が展開されています。

砂山地域まちづくり協議会（以下「協議会」という。）は、砂山小学校区の6集落で構成され、平成23年3月に設立しました。協議会では、3年を1期としたまちづくり計画を策定し、計画に基づいた活動を実施しています。第1期（平成24～26年度）及び第2期（平成27～29年度）では、「みんなで話し合い、みんなで取り組み、ふれあう集落・地域を目指して」とし、第3期（平成30～令和2年度）では、「みんなで話し合い、みんなで取り組み、支え合う集落・地域を目指して」とし、第4期（令和3年度～令和5年度）では、「みんなで話し合い、取り組み、誰もが健幸で、支え合う集落・地域を目指して」を基本方針に掲げ、各集落単位で実施する集落事業と砂山地域全体で実施する地域事業の2つを柱として「地域の元気づくり」に取り組んできました。

しかしながら、令和2年から新型コロナウイルス感染症が流行し、まちづくり事業も中止または内容を縮小や変更するなど大きく変化しました。令和5年5月より感染症法上の位置づけが5類感染症となり行動制限は解除されましたが、地域や集落の人口減少や少子高齢化が加速する中、コロナ渦で一旦、止まってしまった地域コミュニティの復活には、かなりの“力”が必要です。

令和5年6月に砂山地域住民の意向を把握することを目的に、地域の中中学生以上全員を対象とした住民アンケート調査を行い、その結果から見えてきた世代別・男女別の住民ニーズや地域課題を分析し、今後の姿を見据えながら、第5期砂山地域まちづくり計画（以下、「第5期計画」という。）では、第4期計画の中で、これからも取り組む必要があるものは継続し、地域課題解決に向けて生活支援協議体（かみはやし互近所ささえ～る隊）との連携を進め、子どもたちとのふれあいに力を入れるため小・中学校との連携、そして当地域に関係性を持っていただける方を増やすため、関係人口創出を目的する取り組みなど、私たちを取り巻く環境の変化に合わせた第5期計画として策定します。

2 地域の現況と課題

（1）地域の現況

①地域の概要

砂山地域は、神林地区の西部に位置し、「お幕場」を中心とした広大な松林や「大池」、平成の名水百選に選ばれた清流「荒川」、その清流が流れ込む日本海など、美しい自然に恵まれた地域です。

ここに暮らす人は、地域に愛着を持ち、昔からの伝統行事や文化、町並みなどをこの地域の誇れる財産として継承してきました。

自然や伝統のほかにも、美味しい農産物や魚介類、それらを食材とした郷土料理、そして何よりもあたたかい人とのつながりがあります。

②砂山地域 6 集落の特色

区が中心となり、住民同士のつながりをつくり、集落間の連携を図っています。防災、伝統文化、環境整備活動を消防団やPTAなどの各種団体と住民一人ひとりが協力し合っ
て、より住みよい集落を目指して活動しています。

ア 清流「荒川」に面した牛屋・福田集落

集落の南側の平成の名水「荒川」と面し、その堤防からは、平野に広がる田園を一望することができます。堤防には桜が植栽され、春は桜、夏は清流の輝き、秋には色合いが変わりゆく田園の風景が眺められ、一年を通してウォーキングなどを楽しむことができます。また両集落では、毎年8月の祭礼時に獅子踊りが行われます。古くから引き継がれてきた伝統行事で、数か月前から準備に取り掛かり、集落全体で伝統の継承に取り組んでいます。

イ 砂丘地に位置する北新保・長松・赤松集落

砂山地域の西側は、砂丘地が高台を形成しています。北新保・長松・赤松集落はこの砂丘地に位置しています。砂丘地の畑は、柔らかく糖度が高い「柔肌ねぎ」の産地として有名です。また「お幕場」を擁する広大な「お幕場森林公園」や白鳥の飛来する「大池公園」には大勢の人が訪れます。

ウ 日本海に面する塩谷集落

塩谷集落は、北前船の寄港地として栄えた港町です。伝統的な妻入りの町屋は、歴史的な景観を感じさせます。毎年秋には、町屋散策のイベントに大勢の人が訪れます。町屋の他に御沢仏を納めた「円福寺」、新潟県で一番低い山「番所山」（通称：稲荷山）、塩谷大祭が行われる「鹽竈神社」などたくさんの歴史的財産や自然景勝に恵まれた集落です。

※砂山地域の三つの宝

○日本の白砂青松百選「お幕場」

日本の白砂青松百選は、社団法人・日本の松の緑を守る会が選定した日本の美しい松原を伴った海岸のことです。江戸中期1700年代から江戸の終わり頃までの村上藩当時、お殿様の遊園・行楽の場所としてつくられたといわれています。一帯は松と白砂と苔の緑の景色だったということで、今もその面影を残しています。毎年5月に村上藩のあった頃を偲び、お幕場茶会が開かれています。

○平成の名水百選「荒川」

「荒川」は、平成20年6月に環境省が発表した「平成の名水百選」に選ばれました。選定対象は中・下流域で関川村、村上市、胎内市におよびます。砂山地域の人達は、昔からこの名水の恵みを受けています。

○お幕場森林公園・大池公園

塩谷から岩船までの海岸約3kmの間、国道345号線と海に挟まれた美しい赤松林が続いています。この一帯を「お幕場森林公園」と呼び、広さは83haにも及びます。公園内には遊歩道が整備され、大勢の方が散策に訪れています。この赤松林に囲まれた「大池」は、広さ約3haの砂丘湖です。ハクチョウの飛来地としても知られ、飛来数は年々増加し、今では1,000羽を超えるほどになっています。

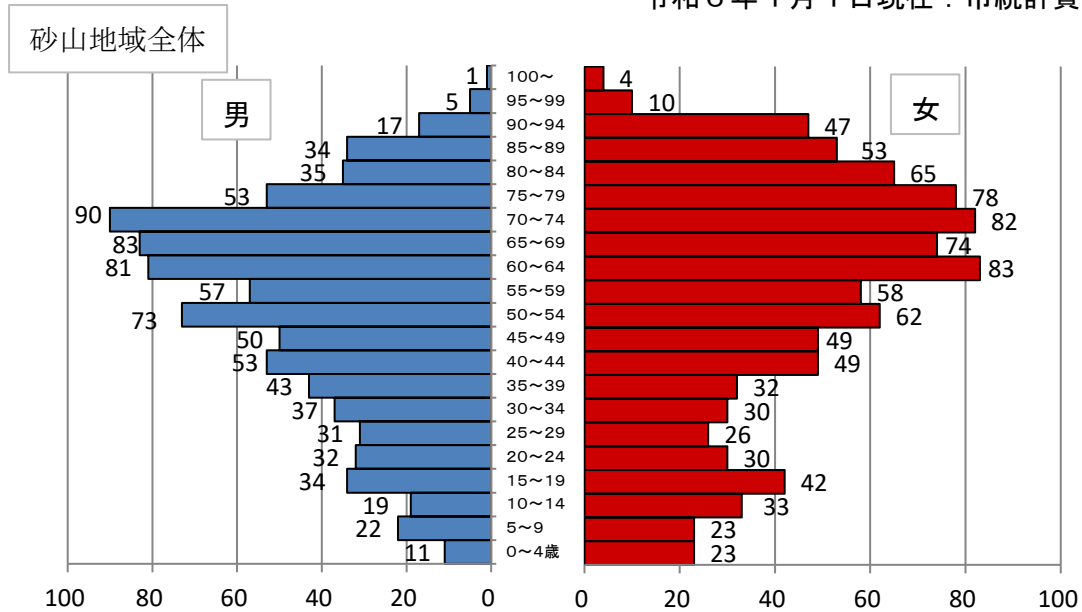
③砂山地域の人口と世帯数

砂山地域の人口は年々減少しており、2000年（平成12年）から2023年（令和5年）までの23年間で減少率は29.4%となっています。特に、2010年（平成22年）からの年少人口（0歳～14歳）の減少が加速しており、生産年齢人口の減少率の約1.7倍となっており、数値からすれば浮き彫りとなっていることがわかります。

【砂山地域：男女年齢別集計表】※ただし施設入所者は除く

人 口	男	女	合計	割合
合計	861	953	1,814	100.00%
15歳未満	52	79	131	7.22%
15～64歳	491	461	952	52.48%
65歳以上	318	413	731	40.30%
うち75歳以上	145	257	402	-
うち85歳以上	57	114	171	-

令和6年1月1日現在：市統計資料



(2) 地域の課題

砂山地域の抱える課題について、令和5年度に実施した住民アンケート調査の集計、まとめをNPO法人都岐沙羅パートナーズセンターに委託し、「砂山地域住民アンケート分析レポート」を作成し、世代別・男女別に整理しました。

砂山地域住民アンケート 配布数:1,572通、回収数:1,436通、回収率:91.3% (令和5年6月実施)

アンケート結果	ポイント
回答者の属性	
回答者の半数以上が60代以上。(若い世代は少数派) 農業従事者の84.8%が60代以上。	世代別に意見をまとめないと若い世代の声が埋没する。 将来的に農地の維持管理が課題となる。
日常的な交通手段	
80代になると車を運転する人の割合が低下し、親族等による自動車での送迎が主な交通手段となっている。 (80代男性30.3%、80代女性43.4%)	現在の70代以下は、1人暮らし・夫婦のみ世帯が多いため、今後親族等による自動車での送迎を今まで通りあてにできるのか？

地域活動への関心

地域全体では、「関心はあるが参加していない」(41.6%)が最も多く、特にどの年代も女性は「関心はあるが参加していない」という割合が男性に比べて高い。	「地域活動に参加していない＝関心がない」という訳ではない。→「時間的に余裕がない」という理由が多く、多様な参加の方法・工夫・配慮が必要。
「関心はないし参加もしていない」という人は若い世代に多く、10代男性(31.9%)、20代男性(50.7%)、20代女性(39.3%)、30代男性(29.9%)が特に高い。	H29年度と比べ、関心はないし参加もしていないという人の割合が若い世代で増加している。

近所づきあいで悩み

半数以上が「悩みや要望はない」と回答しているが、「近所づきあいが煩わしい」18.0%、「地域・集落での仕事や行事が忙しすぎる」10.1%。 地域の営みを持続可能なものとするためには、これまでのやり方・活動内容を見直し、負担軽減を検討する必要がある。	30～60代の中堅世代には昔ながらの近所付き合いのやり方が価値観と合わない部分が出てきている。地域活動に参加している割合の高い40・50代が「行事が多くて、忙しすぎる」と強く負担感を抱えている。 人口減少が進む中、地域・集落の運営方法や組織体制を検討する必要がある。
---	--

定住受入の必要性、他地域との交流の必要性

定住者の受け入れについては半数近くの人が「必要」と考えているが、「わからない」という人も1/3程度いる。他地域との交流の必要性については「わからない」が4割以上。	人口減少対策として他地域からの移住・定住者の受け入れが必要と考えている人もいるが、今ひとつ実感がないという人も多い。 今後を考え、 地域での十分な話し合いが必要 。
---	--

この地域・集落に住み続けたいと思いますか？

砂山地域では「住み続けたい」と答えた人は56.1%で、 神林地区5地域の中で最も低い割合 でした。 特に10代～30代が、男女とも他地域と比べて低い割合となっています。	10代と20代は「住み続けたい」が30%以下で「わからない」が一番多い。 若年層は「わからない」と答えた人も4～6割前後いるため、これからの取り組み次第。
--	--

自分の子供にもこの地域・集落に住んでほしいと思いますか？

地域全体では「住み続けてほしいと思う」が40.3%で、これも 神林地区の中で最も低い割合 でした。 前回調査(H29)と比べ、60代以下の大半の世代で子供への定住希望が低下している。	10～30代及び40・50代女性は「住み続けてほしいとは思わない」の方が多い。 定住意向を見たときに 親世代の意向が、子ども世代の意向に影響している可能性 がある。
---	--

この地域・集落に愛着がありますか？

地域全体では「愛着がある」と答えた人は59.2%。 H29の前回調査よりも若年層(10代～30代)の愛着度は上昇しているが、40・50代は若干低下している。	愛着と定住意向が繋がっていないのは、将来への希望・安心感が足りていないからか？ 地域・集落でできることを考えていく必要がある 。
---	---

地域・集落内で誇りに思っているものは何ですか？(複数回答)

誇りに思う地域資源のトップ5は		砂山地域の素晴らしい 地域資源 (お幕場、大池、荒川、田園風景等)や 伝統行事 (獅子踊り、七夕、お神輿等)を大切に、盛り上げることが誇りになる。
①地域内の景観・自然環境	42.2%	一方、10～50代は誇りに思っているものが「無い」と答える割合が地域全体の割合より高く、 世代間の意識の違い にも目を向ける必要がある。
②地域内の諸行事(祭り、イベント等)	24.5%	
③無い	18.8%	
④地域内の特産物(農林水産物、加工品等)	14.8%	
⑤地域内に暮らす人々	11.4%	

日々の暮らしの心配ごと(複数回答)

不安・困りごとのトップ5は、		
①自分自身の健康面	43.2%	70・80代ではトップ。 →自分の健康について不安視している人が多い。
②空き家が増えて管理が行き届かなくなる	35.2%	30～70代で上位にランクイン。 →空き家が増えていることに危機感を感じている。
③災害への備えや避難など防災・安全	34.9%	20～80代で上位にランクイン。 →ほぼすべての世代で課題として認識されている。
④屋根の雪おろしや玄関先の門払いなど冬季の除雪	31.8%	20・40・60～80代で上位にランクイン。 →幅広い世代で心配ごとになっている。
⑤親の介護や生活支援	25.8%	20～60代で上位ランクイン(40・50代では第1位)。

※要注意(全体の順位は高くないが、特定の世代では順位が高いもの)

⑰進学・就職	9.4%	10代のみ上位にランクイン。
⑲通学・学習環境	7.2%	→今後の進路に対する不安が大きい。
⑳安心して子育てができる環境があるか	7.0%	30代のみ上位にランクイン。 →子育て環境への不安が大きい。
⑦医療や福祉等の公的サービスが今と同じように受けられるか	24.8%	70代のみ上位にランクイン。 →医療・福祉への不安が大きい。
⑧近隣にお店がなくなり、日常の買物が不便になる	24.4%	80代のみ上位にランクイン →交通手段への不安が大きい。
⑩買い物・通院などの交通手段	17.3%	

3 砂山地域のまちづくりの基本方針、将来像

これまでのまちづくり計画（第1期～第4期）では、「砂山地域事業」と「集落町内会事業」の2つを柱に据えた取り組みを行ってきました。「砂山地域事業」では、お幕場、大池、荒川、塩谷の海岸を砂山地域の共通の財産として位置付け、それらに働きかける取り組みを通して、地域に関心や愛着を持つこと、そして砂山地域住民としての一体感の醸成を目指しました。「集落町内会事業」では、集落活動をまちづくりの基本と捉え、集落の活動を支援することで、集落住民の絆を深めることや、地域の元気づくりを目指してきました。

第5期計画においても、この2つの取り組みを継続し、これまでの課題を検証しながら、地域の皆さんが主体的に参加していただけるような活動になるよう検討していきます。

また、希望をもって地域で安心して暮らせるよう、支え合う仕組みづくりをかみはやし互近所ささえ～る隊や神林地区関係人口創出事業実行委員会と連携を図りながら、継続的に課題解決に向けて、みんなで話し合い、取り組みを進めてまいります。

(1) 基本方針

みんなで話し合い、取り組み、誰もが健幸で支え合う集落・地域を目指して

砂山地域の目指す将来像を掲げる基本方針では、これまで住民一人ひとりがこれからも安心して暮らしていくために、みんなで支え合う集落・地域づくりを目指すこと掲げてまいりました。

第5期計画では、これまでの方針を基本として、目指していくためには、まずは誰もが健康で、幸せであることが重要です。1日1日を大切に、隣り近所同士がお互いさまの精神を忘れずに、そのような関係性を地域全体で意識を持ち、目指すことを基本方針とします。

(2) 目指すべき将来像

- ①砂山地域の財産を活かし、地域住民が憩い、他地域からも人が訪れる地域
- ②集落の伝統行事や文化が守られ、地域の誇りとして継承される地域
- ③災害への備えや避難体制が整備され、安心して暮らせる地域
- ④地域の課題をみんなで話し合い、支え合いながら暮らせる地域
- ⑤子どもたちとの触れ合いを大切に、地域資源などの魅力を発信する地域

(3) 具体的な取組み

将来像	取組内容
①砂山地域の財産を活かし、地域住民が憩い、他地域からも人が訪れる地域	◆お幕場クリーン作戦 これまで白砂青松の美しい松林を守っていくため、お幕場でのクリーン作戦を継続的に実施してきました。少しずつではありますが、白い砂地が広がり一定の成果があり、「取り組みを止めるとまた荒れてしまうので継続すべき」という意見が多かったこともあり、地域、集落、家族等でお幕場に親しむ機会を増やすこと等も検討しながら、関係機関とも連携を図りながら取り組んでいきます。

	<p>◆花いっぱい事業</p> <p>第4期の取り組みでは、砂山地域の共通の財産である大池公園を花で飾り、多くの方に砂山地域を訪れてもらうことと、植栽や管理作業を通して地域住民のつながりを深めることを目的として実施しました。第5期では、苗の植栽や草取り作業等など、実施方法を検討しながら継続して取り組んでいきます。</p>
②集落の伝統行事や文化が守られ、地域の誇りとして継承される地域	<p>◆集落事業</p> <p>人口減少や少子高齢化が進み、地域を支える人材が不足する傾向になる中、伝統的な行事などの地域活動を続けることが困難になってきている集落もあります。また、集落の皆さんが一堂に会して顔を合わせる機会や地域住民同士のふれあいも以前より少なくなってきました。第5期では、集落内での話し合いを更に深め、より一層集落が元気になるような取り組みを検討していただき、集落単位で取り組む事業への支援を行います。</p>
③災害への備えや避難体制が整備され、安心して暮らせる地域	<p>◆地域防災活動（自主防災組織*1等との連携）</p> <p>第3期に「砂山地域自主防災連絡会議」を設置し、砂山地域全体で研修会などを開催し、地域として防災知識の構築や情報共有を行うなど活動を行ってきました。第5期でも地域の課題や実情に合った対策を地域住民とともに考えていく機会を設けるなど検討してまいります。</p>

*1 自主防災組織とは、地域住民が協力・連携し、災害から「自分たちの地域は自分たちで守る」ために活動することを目的に結成する組織であり、日頃から災害に備えた様々な取り組みを実践するとともに、災害時には、災害による被害を最小限に食い止めるための活動を行います。

将来像	取組内容
④地域の課題をみんなで話し合い、支え合いながら暮らせる地域	<p>◆支え合いの地域づくり（集落支援員*2、生活支援協議体*3等との連携）</p> <p>砂山地域の6集落は、集落の規模や産業、年齢構成、人口減少率などに違いもあり、集落が抱えている課題も異なる部分もありますが、課題解決に向けた取り組みとして、包括的に支える仕組みづくりを推進していきます。</p>
	<p>◆敬老会の開催</p> <p>神林地区の敬老会は、公民館事業として実施していた頃からの伝統的な行事であり、毎年大勢の高齢者の皆さんにご参加いただいています。支え合いの意識を育む事業としても位置付けおりましたが、開催方法について、実行委員会が中心となって検討して取り組んでまいります。</p>
	<p>◆研修会・ワークショップ等の開催</p>

	<p>砂山地域においても少子高齢化と人口減少は急速に進んでいます。住民アンケート調査から浮かび上がった地域のさまざまな課題に向き合い、各集落の役員の皆さんとまちづくり協議会が一緒になって地域の現状や他地区の取組みなどについて学び、これからも安心して暮らしていけるまちづくりを考えていくため、各種研修会やワークショップなどの計画を検討していきます。</p>
<p>⑤子どもたちとの触れ合いを大切に、地域資源などの魅力を発信する地域</p>	<p>◆小中学校との連携について</p> <p>私たちはこれまでも小・中学校の児童との関係性を大切に、連携を図ってまいりました。第5期においても、平林地域まちづくり協議会と連携を図り、継続的に地域の子どもたちのために地域として伝えていくべきことを研究しながら、小中学校再編に伴う、今後のまちづくり協議会の組織再編も含めた検討を行っていきます。</p>

*2 集落支援員は、地方公共団体からの委嘱を受け、市町村職員と連携して集落点検の実施、集落のあり方に関する住民同士・住民と地方公共団体の話し合いに従事します。また、話し合いを通じて必要と認められる地域の実情に応じた集落の維持・活性化対策に取り組みます。

*3 生活支援協議体は、高齢者人口の増加などにより、介護サービスの利用者UP→介護保険料UPが予想されることから、地域の支え合いによる生活支援や介護予防を考えていくことを目的に各地区で設置されています。神林地区では、5地域のまちづくり協議会、民生委員、NPO 法人希楽々、社会福祉協議会、塩谷基地等の各団体代表者が構成メンバーになっています。